

みやこんじょ



No.69

発行日 令和4年11月1日

発行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

診療科の紹介（内科）



内科部長
前田 宏一



内科医長
加藤 順也



内科医長
佐藤 誠一



内科医師
石井 隆雄

当院内科は血液疾患と肝臓疾患・糖尿病を中心とした代謝・内分泌内科診療を行っています。

肝臓疾患については、ウイルス性肝炎、脂肪性肝疾患、自己免疫性肝疾患、肝硬変、肝細胞癌などの診療を行っています。

ウイルス性肝炎については、治療法のめざましい発展があります。B型肝炎に対しては、テノホビルやエンテカビルなどの核酸アナログ製剤の内服治療を行っており、B型肝炎ウイルスの良好な制御が得られています。C型肝炎に対しては、グレカプレビル・ピブレンタスビル配合剤などの直接作用型抗ウイルス薬内服治療を行っており、ほとんどの患者様でC型肝炎ウイルスが消失しC型肝炎が完治しています。いずれの治療も外来通院で行っています。

肝硬変については、難治性腹水に対してトルバプタンなどの内服薬治療や腹水濾過濃縮再静注治療、肝性脳症に対してリファキシミン内服治療など複数の治療薬を組み合わせで治療しています。

肝細胞癌については、肝切除術、経皮的ラジオ波焼灼術、肝動脈化学塞栓術、分子標的治療薬などの集学的治療の進歩があり、当院では外科、消化器内科、放射線科と連携してこれらの診療を行っています。

糖尿病については、地域の先生方から御紹介頂いた患者様に対して、入院での糖尿病教育・指導、検査、インスリン療法導入や経口血糖降下薬調節などの薬物療法を行っています。糖尿病を合併した患者様に対する当院での手術に際して、当科で周術期の血糖管理を行っています。当科での入院診療が終了した後は、御紹介頂いた先生方の元での御診療をお願い申し上げており、病診連携を図っております。

また、糖尿病に対する食事療法について、当科外来にて栄養士の元で栄養指導を行っております。栄養指導のみの御依頼もお受けしていますので、お気軽に御利用下さい。

（文責：加藤 順也）

血液疾患については、移植医療以外の診療を行っています。

骨髄異形成症候群、急性白血病、慢性白血病や骨髄増殖腫瘍、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、成人T細胞性白血病などの血液腫瘍の他、特発性血小

板減少性紫斑病や自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血といった良性疾患の診療を行っています。

悪性の血液疾患については、従来の化学療法領域の進歩以外に、分子標的治療薬の進歩が著しく、さらに自分のT細胞性を利用した画期的治療法であるCAR-T療法の登場により、これまでにない著しい治療成績の向上があります。

CAR-T療法は、キメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）を利用した新規治療法です。

患者さんの末梢血からTリンパ球を採取して、悪性細胞（リンパ球性白血病細胞、びまん性及び濾胞性B細胞性リンパ腫や骨髄腫細胞）の表面にそれぞれ発現する標的分子を認識できるように設計された遺伝子とTリンパ球を活性化させる共刺激ドメインと呼ばれる遺伝子を組み込んだ合成受容体（CAR）を遺伝子導入し、体外で増やした後に患者さんの体内に戻して腫瘍細胞を攻撃する治療法です。日本においてはB細胞性急性リンパ球性白血病、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（DLBCL）、濾胞性リンパ腫や多発性骨髄腫の三次治療として認可されています。

この治療は、副作用もあり、適応症例を選ぶことが重要で、だれにでも有効である訳ではありません。また治療施行可能な施設の認定があり、九州地区では九州大学、長崎大学や大分大学など（今後認定施設が増える予定）でのみ可能です（CAR-T療法の種類により認可が異なる）。

上記治療法以外に新薬ラッシュが続いており、標準治療の変更が行われています。

一例を挙げると、悪性リンパ腫のびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（DLBCL）の標準治療法が替わりました。

抗CD79bモノクローナル抗体とモノメチルオリスタチンE（MMAE）という化学療法剤の合剤であるボラツマブ・ベドチンという化学療法剤が、初発の上記DLBCL症例治療として認可され、従来のR-CHOP療法からPola-R-CHP療法へ移行しています。

ボラツマブ・ベドチンは治療抵抗性または再発性DLBCL治療すでに認可されていた薬剤ですが、初発DLBCLの治療に組み込むことにより、従来の標準治療であったR-CHOP療法の成績を上回ることが報告されたことが根拠になっています。

ただし症例により従来のR-CHOP療法を行う場合がありますので、上記治療を絶対行うという訳ではありません。

従来難治で治療成績が十分でなかったT細胞性リンパ腫領域においても、モガムリズマブ、プレタキシマブ・ベドチン、フォロデシン、ロミデプシン、プララトレキセート、ベキサロテンに加えて、デニロイキン・ジフチククス、有機ヒ素製剤であるダリナバルシンといった新薬が登場しています。前二者は成人T細胞性白血病リンパ腫でも使用されています。

慢性骨髄性白血病においては5種類のチロシンキナーゼ阻害薬の他、STAMP阻害剤の登場により治療不耐容例や耐性例に対する治療手段が増えました。

また上記薬剤により深い効果を得られた方では、治療薬を中止して、経過観察できる方も少ないながら認められるようになってきました。

血小板減少性紫斑病や再生不良性貧血におけるTPO受容体作動薬による治療成績の向上があります。

また従来適切な治療薬がなかった寒凝血素症に対する抗補体（C1s）モノクローナル製剤：スチムリマブの登場など新規薬剤が登場しました。

多発性骨髄腫においては免疫調整剤、プロテアソーム阻害剤、抗CD38モノクローナル抗体製剤、抗SLAMF7モノクローナル抗体が登場し、大きく治療成績を改善しました。

しかし完治は困難なため、CAR-T療法が導入され、全国で展開されてきています。

濾胞性リンパ腫についてはリツキサンを併用した従来の化学療法に加えて、オビヌツマブ、再発難治例に対するリツキサンとレナリドマイドによる治療法やタセメトスタット内服療法が、また成人T細胞性白血病リンパ腫においては、ツシディノスタットといった新規内服治療薬の開発が行われ、これらを導入した治療を組み込むことにより治療成績の向上があります。

造血幹細胞移植療法については、HLA半合致移植療法の実施が可能となったことから、ドナー選択肢が広がり、適応症例の増加があります。移植療法については宮崎市内や鹿児島市内の移植施設に紹介しています。

血液疾患領域においてはまだまだ完治が困難な疾患が多く、新規治療薬や新たな治療法を駆使して、根気強く治療を行うことが必要で、そのために地元に密着した診療の展開を目標として、治療成績を上げる努力を行っています。

放射線治療の進歩と充実により、当院放射線科との連携を行いながら治療を行っています。

HIV診療については当院は拠点病院となっていますが、未だスタッフは不足しており現在十分な診療は困難となっています。県内の感染症科専門医への紹介を行っています。

COVID-19ウイルス感染症については、内科、呼吸器内科及び消化器内科の医師を中心に、全科医師の協力のもとに軽症～中等症症例の診療を行っています。

血液疾患及び肝臓疾患等については、最適な治療法を行うため日々研鑽を積みながら診療を行うよう心掛けています。

当院の総合病院としての利点を活かし、他科との連携を図りながら集学的治療を含む診療を行う方針です。

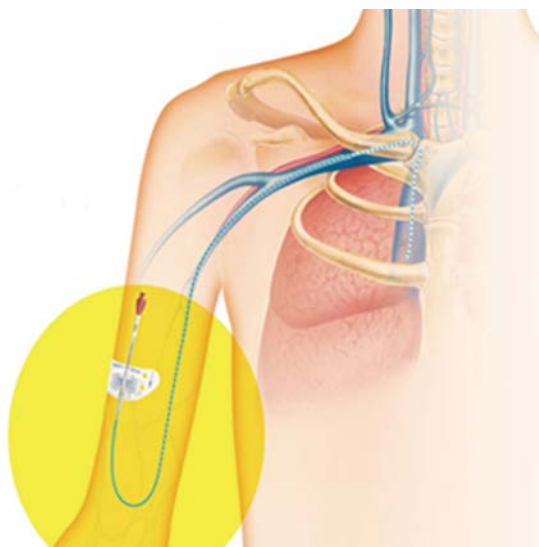
（文責：前田 宏一）

PICC挿入1泊入院についてのお知らせ

当院では、末梢挿入式中心静脈カテーテル（PICC：Peripherally Inserted Central Catheter）の挿入を行う「PICC外来」を開設しています。この度、1泊でのPICC挿入・管理を行うための入院を始めました。PICC挿入当日の管理が不安な方や、入院・転院でのPICC挿入を希望される方など、該当の患者様がいらっしゃいましたら是非ご相談ください。なお、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、事前にPCR検査が可能な患者様は入院予定前日までに検査を行い、陰性確認をお願いします。事前検査が無理な場合は、入院当日に当院の外来で抗原検査を行うこととなりますが、結果が判明するまで、自宅もしくは車内等での待機となりますのでご了承ください。陰性確認後、外来にて患者様の診察とPICCについての説明を行って同意を得てから入院となります。希望の方は、地域医療連携室へ新患予約申し込み用紙と紹介状、入院希望の有無を記入しFAXして下さい。

なお、「PICC外来」もこれまで通り対応致します。不明な点がございましたら、当院診療看護師までご連絡ください。

（診療看護師：原田 由紀子）



PICC 挿入 1 泊入院の流れ

予約方法

地域医療連携室へ新患予約申し込み用紙と紹介状、入院希望日を FAX して下さい。

医師、病棟師長と入院調整を行い、地域医療連携室より紹介元へ連絡します。

入院当日

呼吸器内科外来で、事前の PCR 検査の確認、もしくは抗原検査を実施します。

患者の診察を行い、患者及び家族へ PICC について説明を行い同意を得ます。

入院後、PICC 挿入を実施します。

入院翌日

PICC 挿入部の消毒と、管理方法の説明を行います。その後退院です。

ふれあい看護体験



7月28日（木）に「令和4年度ふれあい看護体験」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大により、今年度も人数制限の上、開催時間を短縮し行いました。看護体験を通して看護の心や看護師の仕事の理解を深めてもらいたいという思いから、人材確保プロジェクトチームのメンバーを中心に計画し、開催することができました。入院患者さんとの触れ合い体験はできませんでしたが、高校生同士での血圧測定や肺音聴取、BLS体験、新生児人形での体重測定、車いす・ストレッチャー移動などを体験しました。高校生の

の皆さんは、初めて白衣を身につけ、最初は緊張していましたが、体験に興味を持ち、看護師へ積極的に質問する様子もみられるようになりました。

座談会では、「看護師への興味がより一層高まった」「人のために役に立てる看護師になりたい」等の感想が聞かれ、看護体験や、看護師との意見交換を通し看護への関心を深めていました。今回の体験で、一人でも多くの高校生が看護師に興味を持ち、今後の進路選択のひとつにしてくれることを願っています。



（教育・研修部副部長 和氣美紀）

～ふれあい看護体験に参加した高校生の感想～

- *看護師、助産師になりたいという気持ちがさらに強くなりました。大学に行くために頑張ろうと思いました。
- *改めて看護師になりたいと強く思いました。とてもいい経験になりました。
- *実際に看護師の方々とお話をして、本当に優しい方々だなと思いました。私も、人を安心させることができるような人になりたいです。



連携医療機関のご紹介

都城在宅医療クリニック

住所：宮崎県都城市南横市町 3974 番地 4

電話：0986 - 58 - 9808

診療科目：内科・神経内科

休診日：土曜・日曜・祝日

(急がれる場合の患者紹介は休日でも受け付けます)



院長 矢野 成昭 先生



在宅医療に関しては13年前より鹿児島市のナカノ在宅医療クリニックにて非常勤で11年・常勤で2年研修させていただき、今年3月に開院させていただきました。

外来は水曜日午後2時から5時までですが、患者さんの御家族との面談や新規の相談などに当てており、往診にも対応しています。外来枠はありますが、基本的に24時間往診可能な体制を取っています。

診療内容は在宅や施設を定期的に訪問診療させていただき、患者さんの生活面の支援や健康状態の悪化を防ぐように健康面の指導や内服管理を行っております。中心静脈栄養・気管切開・胃瘻などの管理や老衰・癌末期を含め、急変時の往診や在宅看取りまで対応させていただいております。

訪問看護師や様々な先生方の御協力を得て、3月の開業から今までで、在宅12名・施設で11名のお看

取りをさせていただくことができました。地域の隠された力と医療関係者皆様の熱意に毎日感動し、感謝の念を感じております。

急性疾患からせppかく救命できたのに、その後一生療養病棟や施設暮らしになってしまうのでは、人生の意味が失われてしまうと私は考えています。呼吸器や胃瘻などの医療処置があってもできるだけ社会に帰れるように、癌末期の患者様が安心して最期まで在宅で過ごせるように今後も精進と努力を積み重ねていきたいと考えております。当院では認知症も含め困難症例に対しても取り組みを行っており、退院困難な患者様など一度ご相談いただければ幸いです。今後とも皆様の御協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

R4年NST研修報告

第5回 NST 専門療法士教育研修を令和4年7月11日～7月15日の5日間にわたり開催しました。参加者は県内から6名、県外から5名、当院から1名の合計12名、参加職種は看護師6名、薬剤師1名、管理栄養士5名でした。講師は、NST専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）のみならず、歯科医師、薬剤部長、臨床検査技師、作業療法士に加え、皮膚・排泄ケア認定看護師、緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師の様々な職種から専門性を生かした講義やワークショップを行いました。研修



を終えた感想で「幅広い専門知識を習得し、他施設のスタッフとの交流で多くの刺激を受けることができました」など感想を頂きました。コロナ禍での3年ぶりの開催となり不安もありましたが、しっかりと感染症対策を行い、各部門のご協力を頂き無事に終了することができました。来年度も開催を予定していますので是非ご参加ください。また栄養に関する相談もホームページのNST栄養サポートチームからE-mailにて受け付けています。

(NST専任管理栄養士 祝迫 裕江)

看護学校祭

令和4年10月15日(土)

令和4年10月15日(土)に看護学校祭を行いました。今年は、コロナウイルスによる影響が続く中でも、少しずつ対応できるようになった今だからこそ、前進していきたいという思いを込めて「全進～一步前へ～」というテーマで行いました。

午前中は「LGBTQ+～多様な性 認め合う社会に～」というテーマで、講師をお招きして特別講演を開催しました。講演を通して、「LGBTしか知らなかったが、Q+があることを知った」「多数派、少数派に限らずどちらにも権利があるし、自分の人生は自分で決めて良いと思うきっかけになった」等の学びを得ることができました。

午後からは、手浴や脳トレ体験、LGBTを象徴する色を用いたリース作りやコースター作成、募金活動、近隣のお店の協力をいただきお菓子やお弁当の販売、学生手作りのヘアゴム販売等を行いました。学校祭当日は、多くの人の笑顔があふれ、一步前進する機会につながったと感じました。

(都城医療センター附属看護学校 教員 小倉 裕香)



外来診療科別週間担当医当番表

独立行政法人
国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30 ~ 11:00

【2022年11月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ^{※2}	初診	血液	前田 宏一		佐藤 誠一	
		肝	加藤 順也			
	再診	前田 宏一 佐藤 誠一	前田 宏一 佐藤 誠一	前田 宏一 佐藤 誠一 田 宏一 高 誠一 一也 一也	前田 宏一 佐藤 誠一 田 宏一 高 誠一 一也 一也	前田 宏一 佐藤 誠一 田 宏一 高 誠一 一也 一也
循環器内科	一般	剣田 昌伸	剣田 昌伸	剣田 昌伸	宮崎大学医師	剣田 昌伸
	特殊			心臓CT		
呼吸器内科	初診	白濱 知広		白濱 知広	今津 善史	
	再診	今津 善史 白濱 知広	今津 善史 白濱 知広	今津 善史 白濱 知広	白濱 知広	今津 善史 白濱 知広
呼吸器外科	初診	手術日(午前)	加藤 文章		富田 雅樹	
	再診	加藤 文章(午後)	富田 雅樹	手術日	加藤 文章	加藤 文章
小児科	午前	1診	波種 真希	入江 慎二	小川 智香	大富 滉平
		2診	入江 慎二	波種 真希	大富 滉平	小川 智香
	午後	2診	小川 智香	波種 真希	大富 滉平	小川 智香
		3診			シナジス外来 (8月~3月)	
外科	初診	小森 宏之		小森 宏之		八木 泰佑
	再診	小森 宏之 八木 泰佑	手術日	酒匂 照生	手術日	加藤 梨佳子 八木 泰佑
	特殊	乳腺(小森宏之)		乳腺(小森宏之)		乳腺(小森宏之)
消化器病センター	初診		駒田 直人		駒田 直人	
	再診	藤原 利成	駒田 直人	内視鏡検査・治療	駒田 直人	駒田 直人
	内視鏡	駒田 直人				藤原 利成
N S T 外来			駒田 直人 (第二、四火曜日 14:00~16:00)			
整形外科	初診		濱吉 黒木	朗恵 吾	濱吉 黒木	朗恵 吾
	再診	吉川 教恵	吉川 教恵	手術日	黒木 啓吾	吉川 教恵
	特殊検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査
リウマチ科 ^{※2}	初診	濱田 浩朗	濱田 浩朗	手術日	濱田 浩朗	濱田 浩朗
	再診	濱田 浩朗 吉川 教恵	濱田 浩朗 吉川 教恵		濱田 浩朗	濱田 浩朗 吉川 教恵
泌尿器科	1診		山崎 丈嗣	山崎 丈嗣	慶田 喜文	山崎 丈嗣
	2診	手術日		慶田 喜文		慶田 喜文
皮膚科			中山 文子 (9:30~13:00)		中山 文子 (9:30~13:00)	中山 文子 (9:30~13:00)
神経内科					杉山 崇史	
産婦人科	初診	後藤 裕磨	古田 賢	大富 正子	宮崎大学医師 (第二、第四各週)	古田 祐美
	再診	後藤 裕磨 古田 祐美	古田 賢 後藤 裕磨	古田 賢 大富 正子	古田 賢 宮崎大学医師 (第二、第四各週)	古田 祐美 大富 正子
耳鼻咽喉科	一般	外山 勝浩 山本 章裕	外山 勝浩 山本 章裕	外山 勝浩 山本 章裕	外山 勝浩 山本 章裕	手術日
	難聴外来	山本 章裕 (14:00~17:00)				
放射線科	放射線治療	新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平	新村 耕平
	画像診断	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一
歯科口腔外科	一般	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	手術日
	ペインクリニック					横山 幸三 (終日手術・外来不定期)
	障がい者歯科					森主 宜延 (月2回)
がんサポート外来						岩崎 竜馬
緩和ケア外来						林 章敏 (第四金曜日)
特殊外来		マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	フットケア外来	リンパ浮腫外来 助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来 P I C C 外来 (午後)	ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00~15:00)

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。

※2 医療機関の方へ:血液内科、リウマチ科の初診については、事前に初診紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893

独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報委員会